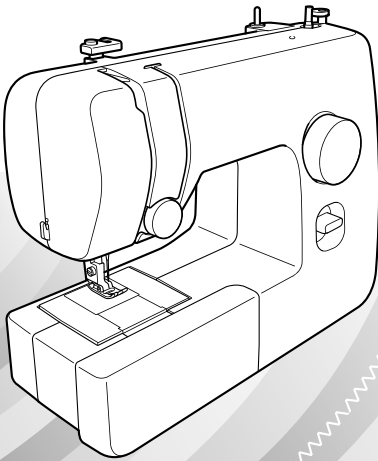


取扱説明書

電動ミシン

ETX67/87シリーズ



- ご使用になる前に必ず本書をお読みにになり、正しくお使いください。
- 本書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。
- 最新の取扱説明書は、ブラザーのサポートサイト(<https://s.brother/cpnac/>)
でご覧いただけます。



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、取扱説明書で機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。また本書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。



安全にお使いいただくために

人への危害や損害を未然に防ぐために、必ずお守りください。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して説明しています。










	警告	「死亡や重傷を負うおそれのある」内容です。
	注意	「傷害を負うおそれのある」内容です。
重 要		「物的損害が発生するおそれのある」内容です。

■ お守りいただく内容を区分して説明しています。

	「してはいけない」内容です。
	「実行しなければならない」内容です。

警告

火災・感電・故障・事故などをさけるために

-  ● 一般家庭用電源 AC100V の電源で使う
-  ● 濡れた手でプラグの抜き差しはしない
-  ● 爆発性および導電性の粉塵が発生する環境では使わない
-  ● 本製品を清掃する際、近くで可燃性のスプレーなどを使わない
可燃性スプレーの例
 - ・ほこり除去スプレー
 - ・殺虫スプレー
 - ・アルコールを含む除菌、消臭スプレー
 - ・アルコールなどの有機溶剤や液体
-  ● プラグは根元まで確実に差し込む
-  ● 次の場合は電源を切り、プラグを抜く
 - ・接触不良などで正常に動作しないとき
 - ・雷が鳴りはじめたとき
 - ・ミシンの使用後や、そばを離れるとき
 - ・使用中に停電したとき
-  異常・故障時は …
 - **すぐにプラグを抜き、お買い上げの販売店へご連絡を！**
(またはお客様相談室 (ミシン 119 番) へ)
異常などの例：
 - ・煙が出た、異臭や異常音がする
 - ・ミシンを落とした
 - ・電源コードやプラグの破損
 - ・本体に水が入った
-  ● 本製品は、お子様の手の届かないところで使用・保管する
(本製品には小さな部品が含まれており、誤飲のおそれがあります)
-  ● 本機が入っていた袋は、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄する
(かぶって遊ぶと、窒息のおそれがあります)

⚠ 注意

火災・感電などをさけるために



- 次のようなことをしない
 - ・たこ足配線
 - ・電源を切らずにプラグを抜く
 - ・ゆるんだコンセントに差し込む
 - ・電源コードを引っ張って抜く



- 電源コードは、次のような扱いをしない
 - ・無理に曲げる
 - ・ねじる
 - ・たばねたまま使う
 - ・重い物を載せる など

けが・針折れなどをさけるために



- 縫製中は次のことをしない
 - ・針やプーリー、てんびんなど、動いている部品に手を近づける
 - ・針の下などに指を入れる
 - ・布地を無理に引っ張ったり、押したりする

- 曲がった針は使わない

- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かない
(すべったときにけがのおそれがあります)



- 上糸や下糸などに関する操作は、本書に従って正しく行う
(誤ると、糸がらみなどが発生し、針の折れや曲がりのおそれがあります)

火災・感電・けが・故障などをさけるために

設置・保管場所



- 次の場所に設置や保管をしない
 - ・著しく高温や低温になる (使用環境温度は 5 ~ 40 °C)
 - ・急激に温度が変化する
 - ・火気や熱器具、冷暖房機器などに近い (火のついたたばこやろうそく、アイロン、ストーブなど)
 - ・スプレー (布用スプレーなど) を使う部屋
 - ・湿気や湯気が多い
 - ・屋外や、直射日光が当たる
 - ・ほこりや油煙が多い
 - ・不安定な場所 (ぐらつく、傾くなど)
- 換気口やフットコンローラーに糸くずやほこりをためない
- 換気口をふさがない

注意

火災・感電・けが・故障などをさけるために

取り扱い



- 換気口や内部にドライバーなどを差し込んだり、異物を入れない
(高電圧部に触れるおそれがあります)

- 修理や分解、改造は行わない

- フットコントローラーの上に物を置かない



- 本書に記載の整備は、プラグを抜いてから行う

持ち運び



- 急激または、不用意に持ち上げない
(ミシン本体の重さは約 4.7 kg あります)



- ハンドルを持って運ぶ
(他の部分では、こわれたり、すべて落とすおそれがあります)

重 要

故障・損傷などをさけるために



- 本製品のお手入れには、シンナー・ベンジン・アルコールなどの有機溶剤、洗剤を使わない
(塗装がはがれたり、傷がついたりするおそれがあります)

- 本製品への注油は行わない



- 付属品、別売品は純正品を使う

ブラザー純正品または推奨品以外の部品使用による故障は、保証期間中でも有償修理となります。

※ その他のものが必ず不具合を起こすわけではありません。

❧ お願い

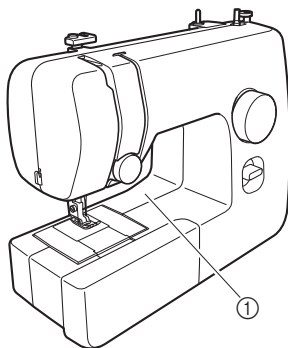
- ・ このミシンは日本国内向け、家庭用です。日本国外では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
- ・ 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- ・ 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますのでご了承ください。
- ・ 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- ・ 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- ・ 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- ・ お子様を使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

警告表示について

本製品には下記の警告が表示されています。

警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。

また、警告表示は、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。



①



目次

安全にお使いいただくために	1
---------------------	---

1. ぬう前の準備 8

各部の名称	8
付属品	8
ミシンの使い方	9
コードを差し込む	9
電源の入れ方	10
フットコントローラーを使用する	10
針の交換	10
正しい針の見分け方	10
針の交換	10
押えの交換	12
押えの向き	12
模様の選び方	13
模様選択ダイヤル	13
模様と模様の名称	13
糸の通し方	15
下糸を巻く	15
下糸をセットする	17
上糸を通す	19
下糸を引き出す	22
布地と糸の種類による針の使い分け	23
ナイロン透明糸	24

2. 基本のぬい方 25

ぬってみましょう	25
試しぬいをする	26
ぬう方向を変更する	26
厚い布地をぬう	27
押えの下に布地が入らない場合	27
薄い布地をぬう	27
伸びる布地をぬう	27
筒ものをぬう	27
糸調子を調節する	28
正しい糸調子	28
上糸が強いとき	28
上糸が弱すぎるとき	28

3. いろいろなぬい方 29

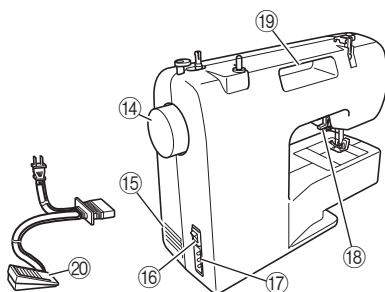
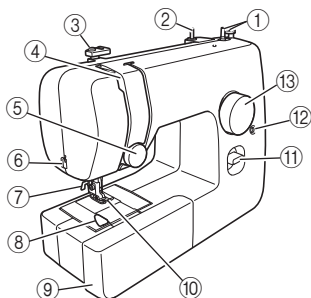
直線模様	29
ジグザグ模様	29
ジグザグ（サテン）模様	29
すそ上げをする	30
たち目かがり	31
3点ジグザグ	31
つくろいぬい	32
ゴムひもつけ	32
つき合わせ	32
2段つき合わせぬい	32
ボタン穴かがり	33
ボタン穴かがりの手順	33
ほつれどめとボタンホールの 切り開き方	34
ボタン穴かがりの調整	34
ファスナーつけ	35
ギャザーよせ	36
アップリケ	36

4. 付録 37

お手入れのしかた	37
注油に関して	37
ミシンを保管するときのご注意	37
かまの掃除	37
こんなときは	39
仕様	41
索引	42

1 めう前の準備

各部の名称



- ① 下糸巻き装置 (P. 15)
- ② 糸たて棒 (P. 15、19)
- ③ 糸案内 (P. 15、19)
- ④ てんびん (P. 19)
- ⑤ 糸調子ダイヤル (P. 28)
- ⑥ 糸切り (P. 26)
- ⑦ 糸通しレバー (P. 21)
- ⑧ 下糸クイック (P. 17、22)
- ⑨ 付属品ケース／補助テーブル (P. 8)
- ⑩ 押え (P. 12)
- ⑪ 返しめいレバー (P. 26)
- ⑫ ボタン穴かがり微調節ネジ (P. 34)
- ⑬ 模様選択ダイヤル (P. 13)
どちらかの方向に回して模様を選択します。

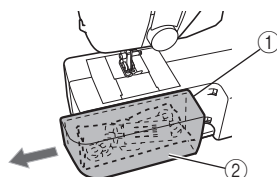
- ⑭ プーリー
めい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げしたりするときに手前に回します。
- ⑮ 換気口
モーターの換気用の穴です。ミシンを使用しているときはふさがらないでください。
- ⑯ 電源スイッチ
本体の電源が入り、ライトが点灯します。
- ⑰ フットコントローラー／電源ジャック (P. 9)
- ⑱ 押えレバー (P. 19)
- ⑲ ハンドル
ミシンを持ち運ぶために使用します。
- ⑳ フットコントローラー (P. 10)

付属品

付属品については、別紙「付属品」を参照してください。

補助テーブルのスペースは、付属品収納としてご使用ください。

補助テーブルを左側へ引いて、取りはずします。



- ① 補助テーブル
- ② 収納スペース

ミシンの使い方

！ 警告

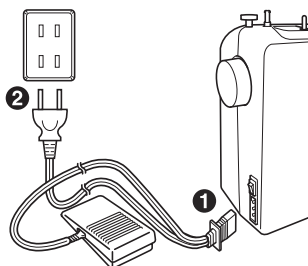
- ・ 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ・ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ・ 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき
 - ・ ミシンを使用したあと
 - ・ 使用中に停電したとき
 - ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき

！ 注意

- ・ 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- ・ 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- ・ 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。

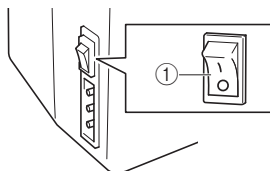
コードを差し込む

- ① 本体右側のジャックにフットコントローラーを接続します。
- ② 電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



電源の入れ方

電源スイッチの上側(↑側)を押します。電源が入り、ライトが点灯します。



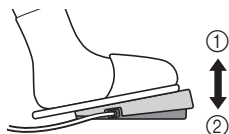
① 電源スイッチ

！ 注意

- ・ フットコントローラーを踏みながら電源を入れないでください。予期せずミシンが作動してケガや故障の原因となります。

フットコントローラーを使用する

フットコントローラーを浅く踏んでいるときは、ミシンはゆっくりと動きます。深く踏み込むほど、ミシンのぬい速度は速くなります。踏み込みをやめるとミシンは止まります。



① 遅い
② 速い

フットコントローラーの上に物を置かないでください。

！ 注意

- ・ フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災・感電の原因となります。

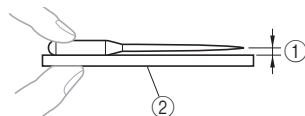
針の交換

！ 注意

- ・ 針は必ず家庭用ミシン針(HA×1)を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が折れ、けがをするおそれがあります。
- ・ 曲がった針は使用しないでください。けがをするおそれがあります。

■ 正しい針の見分け方

針を使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



① 平行
② 平らな板

■ 針の交換

！ 注意

- ・ 針を交換するときは、**必ず電源スイッチを切ってから行ってください**。万一、フットコントローラーが踏まれると、ミシンが作動してけがの原因となります。

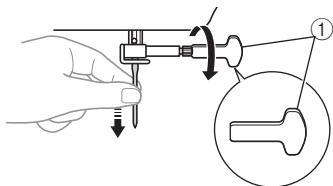
① 電源を切り、押えを取り外します。

② プーリーをゆっくりと手前に回して針を上げ、プーリーのしるしが最上部にくるようにします。

お知らせ

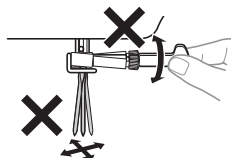
- ・ ミシン内部に針が落ちるのを防ぐために、針穴の上に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。

- ③** 左手で針を持ち、ネジ回しで針のとめネジを手前（時計と反対回り）に回し、針を取り外します。

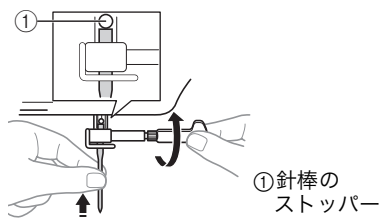


① ネジ回し

- ・ 針のとめネジをゆるめたり、しめたりするときは強い力をかけないでください。ミシンの部品が破損する場合があります。



- ④** 新しい針を平らな面が後ろ側になるように、針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。そのあと、ネジ回しで針のとめネジを奥側（時計回り）に回し、針のとめネジをしめます。



！ 注意

- ・ 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、ネジ回しでとめネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針が折れ、けがをするおそれがあります。

押えの交換

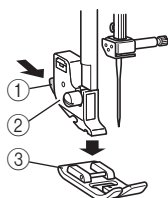
！ 注意

- ・ 押えを交換するときは、必ず電源を切ってから行ってください。万一、フットコントローラーを踏んでしまうと、ミシンが作動してケガの原因となります。
- ・ 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たって折れ、けがをするおそれがあります。

重 要

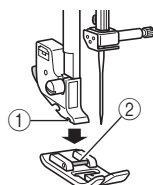
- ・ 押えは必ず純正品を使用してください。

- ① 電源を切り、押えレバーを上げます。
- ② プーリーをゆっくりと手前に回して針を上げ、プーリーのしるしが最上部にくるようにします。
- ③ 押えホルダーの黒いボタンを押します。



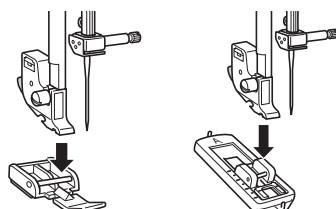
- ① 黒いボタン
- ② 押えホルダー
- ③ 押え

- ④ 取り付ける押えのピンの部分と押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。
- ⑤ 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



- ① ミゾ
- ② ピン

■ 押えの向き



！ 注意

- ・ 押えが正しい向きで取り付けられていないと針が押えに当たって折れ、けがをするおそれがあります。

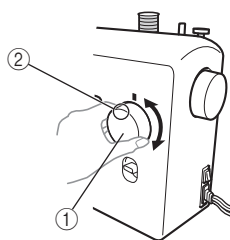
模様の選び方

模様選択ダイヤル

⚠ 注意

- ・ 模様選択ダイヤルを回して模様を選ぶときは、プーリーをゆっくりと手前に回して針を上げ、プーリーのしるしが最上部にくるようにします。針が下にある状態でダイヤルを回すと、針が曲がったり、折れたりしてけがをするおそれがあります。

模様は模様選択ダイヤルを回して選びます。











- ① 模様選択ダイヤル
② 選択模様番号

模様と模様の名称

1 b ac d a			2	3	4	5			6	7
8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	

模様	ぬい目の長さ [mm]	ページ
名前	振り幅 [mm]	
1 	0.5	33
ボタン穴かがり	5	
2 	0.7	29, 36
ジグザグ	1.8	
3 	1.5	29, 36
ジグザグ	3.3	
4 	2	29, 36
ジグザグ	5	
5 	0.4 0.5 0.6	29, 36
ジグザグ (サテン)	5	
6 	1.6	29
直線 (中基線)	—	
7 	1.8	29
直線 (中基線)	—	
8 	2	29
直線 (中基線)	—	
9 	3	29, 35, 36
直線 (中基線)	—	

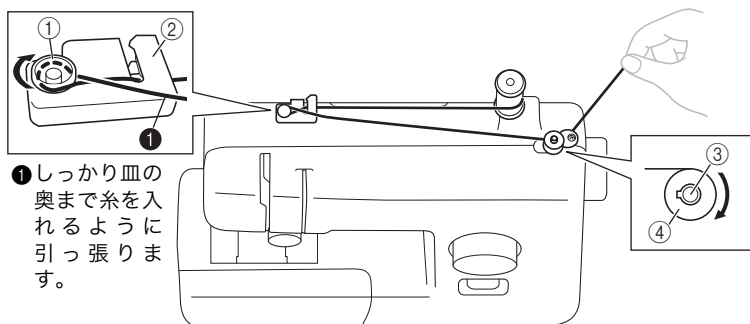
模様 名前	ぬい目の 長さ [mm] 振り幅 [mm]	ページ
 直線（中基線）	4 —	29
 直線（左基線）	2.5 —	
 まつりぬい （普通地）	2 5	30
 3点ジグザグ	1 5	
 まつりぬい （伸縮地）	2 5	31
 たち目かがり （薄地、普通地）	2 5	
 つきあわせ	1.2 5	32
 つきあわせ	1.2 5	

糸の通し方

下糸を巻く

重 要

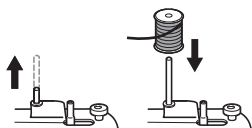
- ・ 付属のボピンは本機純正品です。必ず純正ボピンをご使用ください。ボピンの高さは11.5mmです。



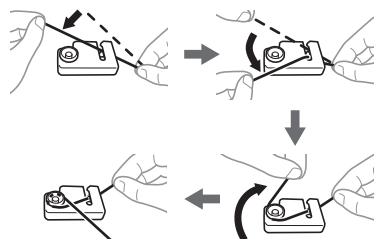
① しっかり皿の奥まで糸を入れるように引っ張ります。

① 皿 ② 糸案内 ③ 下糸巻き軸 ④ ボピン

- ① 電源を切ります。
- ② 糸たて棒を最後まで引き出し、糸こまを糸たて棒に差し込みます。
 - ・ 糸の向きが図と同じになるように、糸こまをセットします。



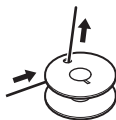
- ③ 右手で糸こま近くの糸を持ち、左手で糸端を持ちながら糸案内に奥から手前に糸をかけます。次に、しっかりと皿の奥まで入るように糸を引っ張りながら通します。



重 要

- ・ 糸こまが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、故障の原因となります。

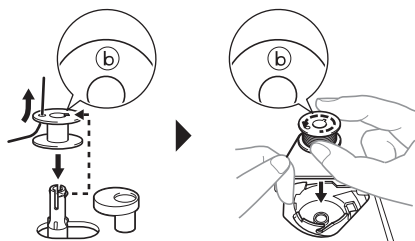
- 4 糸をボビンの穴に内側から通します。



お知らせ

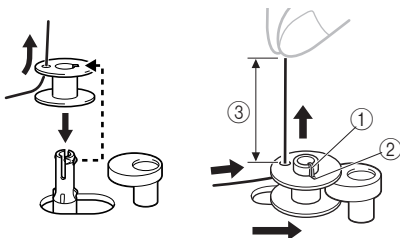
- ・ ボビンの向きを確認しておく、後の手順で参考になります。同じ向きでボビンをかまにセットすることで、正しい巻き方向で下糸がセットされます。

本機付属ボビンの片面には「b」マークが刻印されていますので、参考にご使用ください。



- 5 ボビンを下糸巻き軸にセットし、右側へ押します。

* ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせてセットします。



- ① 下糸巻き軸
- ② ミゾ
- ③ 7-8cm

！ 注意

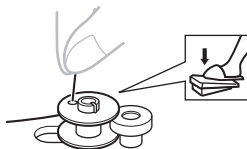
- ・ 糸は少し長めに引き出し、まっすぐ上に伸ばして持ってください。糸が短かったり、たるんでいたり、斜めに持っていたりすると、糸がボビンに巻き込まれけがの原因となります。

- 6 電源を入れます。

！ 注意

- ・ フットコントローラーを踏みながら電源を入れないでください。予期せずミシンが作動してケガや故障の原因となります。

- 7 糸端を持ってフットコントローラーをやさしく踏み込んで、持っている糸が巻き糸で保持されたら、ミシンをいったん止めます。



- 8 ボビンの穴から出ている余分な糸を切ります。



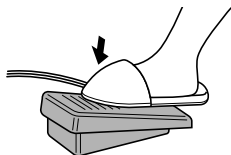
！ 注意

- ・ 下糸は手順に従って正しく通してください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れ、けがをするおそれがあります。

❧ お願い

- ・ ナイロン透明糸など伸縮性のある糸は、低速で下糸巻きを開始し、半分程度巻かれたら停止してください。巻きすぎれやボビンが破損する原因になります。

⑨ フットコントローラーを踏み込みます。



⑩ ボビンの回転がゆっくりになったら、フットコントローラーから足を離します。

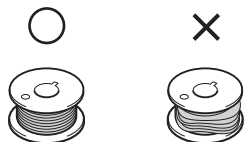
⑪ 糸を切り、下糸巻き軸を左へ戻し、ボビンを取り外します。

📖 お知らせ

- ・ 下糸巻きをしたあと、次にミシンを動かすか、プーリーを手回しすると音がしますが、故障ではありません。
- ・ 下糸巻き軸が右側にあるとき、針は動きません。

⚠ 注意

- ・ 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、糸調子不良や、針折れが原因でけがをするおそれがあります。



下糸をセットする

下糸を巻いたボビンをかまにセットします（下糸を引き出す必要はありません）。

⚠ 注意

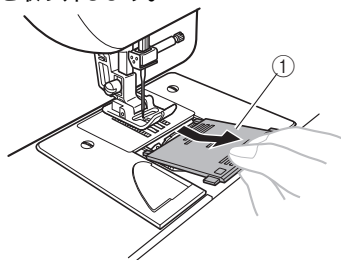
- ・ 必ず電源を切ってから行ってください。万一、フットコントローラーが踏まれるとミシンが作動してケガの原因となります。

① 下糸を巻いたボビンを準備します。

- ・ 詳細は、「下糸を巻く」（P. 15）を参照してください。

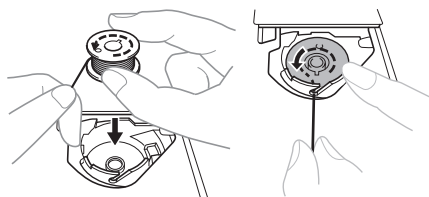
② プーリーをゆっくりと手前に回して針を上げ、押えレバーを上げます。

③ 針板ふたを手前にスライドさせ、針板ふたを取り外します。



① 針板ふた

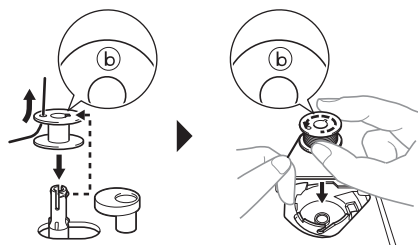
④ 矢印の向きから糸が出るようにボビンをセットします。



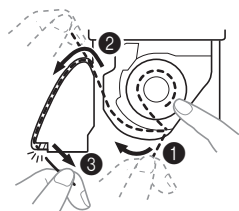
📖 お知らせ

- ・ 下糸巻き軸セット時と同じ向きでポビンをセットすると、左巻きになります。

本機付属ポビンの片面には「(b)」マークが刻印されていますので、参考にしてください。

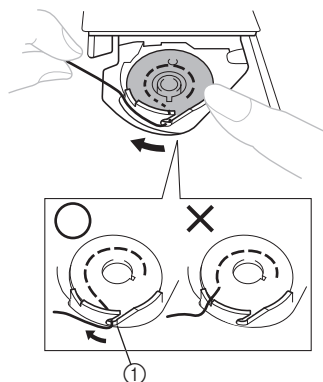


- 5** 右手でポビンを軽く押さえながら、左手で糸端を持ち、ツメ①にかけた糸をミゾにそって通し②、糸を軽くひっぱり、カッター③で糸を切ります。



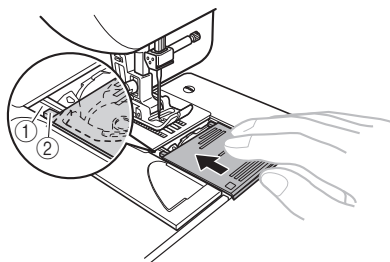
🙏 お願い

- ・ 糸を正しくツメにかけてください。糸調子不良の原因となります。



① ツメ

- 6** 針板ふたを元に戻します。針板ふたの突起を針板に差し込んでから、軽く押して取り付けます。

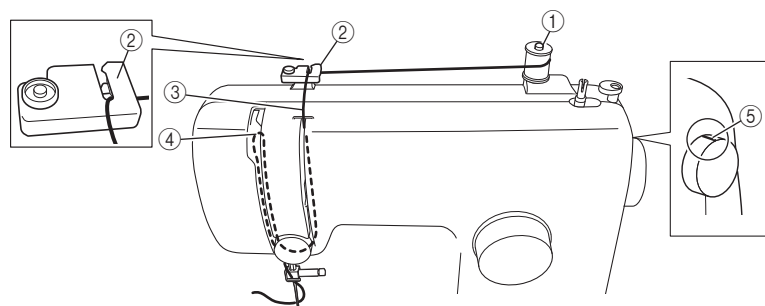


① ミゾ
② 突起部

📖 お知らせ

- ・ 下糸を引き出してからぬう場合は、「下糸を引き出す」(P. 22)を参照してください。

上糸を通す



- ① 糸たて棒
② 糸案内
③ ミゾ

- ④ てんびん
⑤ プーリーのしるし

注意

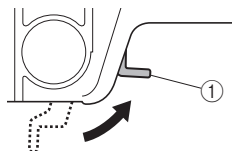
- ・ 上糸は、手順に従って正しく通してください。
上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れ、けがをするおそれがあります。

重要

- ・ 20 番以下の太い糸は使用しないでください。
故障の原因となります。
針と糸は、「布地と糸の種類による針の使い分け」(P. 23)を参照して、適切な組み合わせで使用してください。

- ① 電源を切ります。

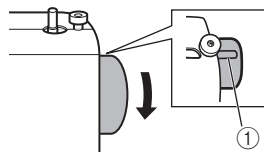
- ② 押えレバーを上げます。



- ① 押えレバー

- ③ プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回して針を上げ、プーリーのしるしが最上部にくるようにします。

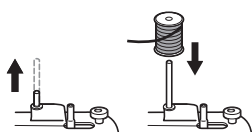
- ・ 針が正しく上がっていない状態で上糸を通すことはできません。



- ① プーリーのしるし

- ④ 糸たて棒を最後まで引き出し、糸こまを糸たて棒に差し込みます。

- ・ 糸の向きが図と同じになるように、糸こまをセットします。

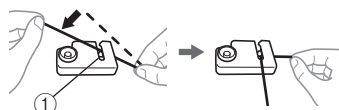


⚠ 注意

- ・ 糸こまが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。

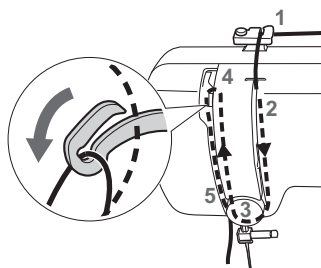
- ⑤ 右手で糸こま近くの糸を持ち、左手で糸端を持ちながら糸案内に奥から手前に糸をかけます。

- ・ 糸案内に糸をかけ、しっかりと奥まで入れるように引っ張ります。

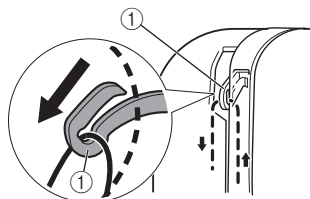


① 糸案内

- ⑥ 矢印のように、ミゾにそって糸を通します。



- ⑦ 下図のように、糸が確実にてんびんに通っていることを確認します。



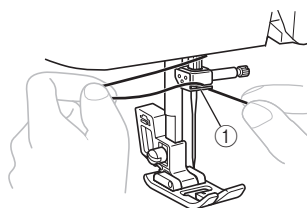
① てんびん

💡 お願い

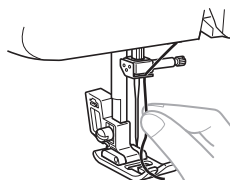
- ・ てんびんが下がっているときは、上糸は正しく糸をかけることが出来ません。プーリーを手前に回し（時計と反対回り）、プーリーのしるしが最上部にくるようにしてください。

- ⑧ 針棒糸かけに糸をかけます。

- ・ 図のように、左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけると、針棒糸かけの後ろに通しやすくなります。

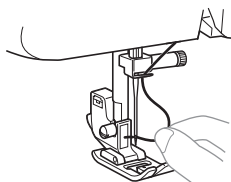


① 針棒糸かけ



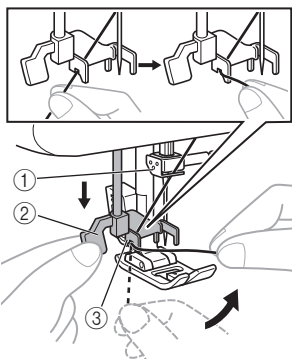
- ⑨ 針や糸が糸通し装置に対応していることを確認します。対応している場合は、次の手順に進みます。

- 糸通し装置は、11 ～ 16 番のミシン針のみに使用できます。
- ナイロン透明糸や特殊な糸を使用するときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通します。

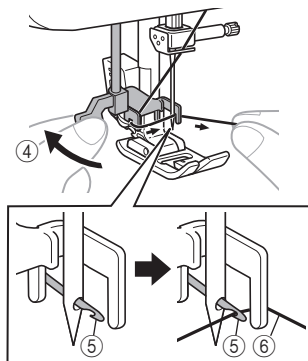


- ⑩ 押えレバーを下げます。

- ⑪ 糸通しレバーをいっぱいまで下げ (②)、糸案内に糸をかけます (③)。糸通しレバーをゆっくりと後ろに押します (④)。針穴からフックが出ていることを確認してから (⑤)、フックの下を糸が通るように、糸をかけます (⑥)。



- ① 針ダキ
② 糸通しレバー
③ 糸案内

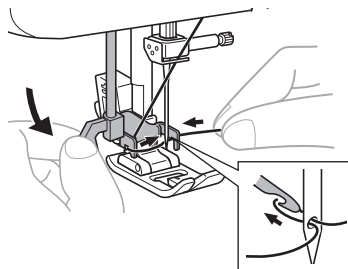


⑤ フック

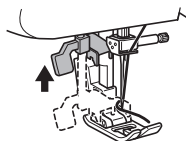
⑥ 糸

* 糸がフックにかかったことを確認してください。

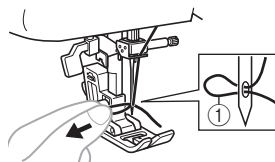
- ⑫ 糸通しレバーをゆっくりと前に戻します。



- ⑬ 糸通しレバーを上げます。



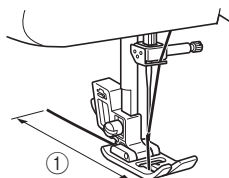
- ⑭ 針穴を通った糸の輪をゆっくり後ろ側にひっぱりまします。



① 糸の輪

15 押えレバーを上げます。

16 上糸を押えの穴から押えの下に通して、押えの下から後ろ側へ 10cm ほど引き出します。



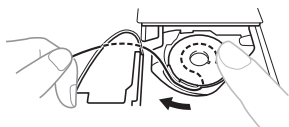
① 10cm

下糸を引き出す

糸を引いてギャザーを寄せたいときや、ぬい始めの糸の始末をしたいときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

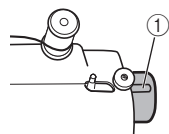
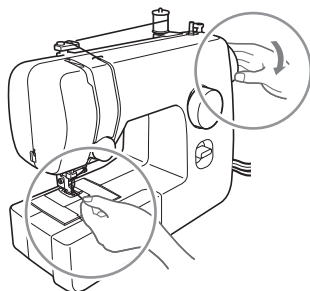
1 針板ふたを外して、下糸を巻いたボビンをかまに入れます。

2 ミゾにそって糸を切らずに途中まで通します。



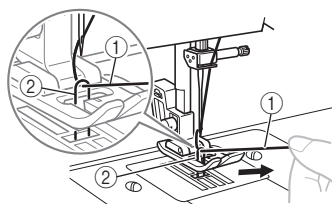
・ 針板ふたは外したままにしてください。

3 上糸の端を持ちながらゆっくりとプーリーを手前(時計と反対回り)に回します。針をいったん下げてからプーリーの上昇が最上部(①)にくるまで針を上げます。



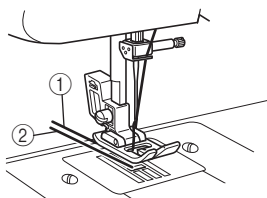
① プーリーのしるし

4 上糸をゆっくりと上に引き、下糸の糸端を引き出します。



① 上糸
② 下糸

5 上糸と揃えて押えの下から後ろ側へ 10cm ほど引き出します。



① 上糸
② 下糸

6 針板ふたを元に戻します。

布地と糸の種類による針の使い分け

このミシンで使用できる針：家庭用ミシン針（HA×1 シリーズの太さ 9 ～ 16 番）
例）HA×1、HA×1SP など

- ・ このミシンで使用できる糸：30 ～ 90 番
 - * 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
 - ・ 布地により、ミシン針や糸を使い分けれます。次の表を参考にして、布地に適した糸と針を選択してください。
 - 表は目安です。必ず試しぬいをしてください。使用する布地を、実際にぬう枚数分重ねてぬってください。
 - ミシン針は消耗品です。美しい仕上がりと安全のために、折れる前の早めの針交換をおすすめします。
- 針交換の目安は「正しい針の見分け方」（P. 10）を参照してください。

- * 基本として、薄い布地には細い針と細い糸、厚い布地には太い針と太い糸を使用します。
- * 薄い布地をぬうときはぬい目を細かく、厚い布地をぬうときは粗くします。（P. 27）

数字が小さいほど 太い糸です。	数字が大きいほど 太い針です。
細い ← 90 ～ 60 ～ 30 → 太い	細い ← 9 ～ 11 ～ 14 ～ 16 → 太い

布の種類・特徴		ミシン糸		針の太さ	ぬい目の長さ mm
		種類	太さ		
薄地	ローン、ジョーゼット、ポーラ、オーガンジー、シフォン、ボイル、ガーゼ、チュール、綿サテン、裏地 など	ポリエステル糸	60 ～ 90	9 ～ 11	細かいぬい目 (1.6 ～ 2.5)
		綿糸、絹糸	50 ～ 80		
普通地	ブロード、タフタ、ギャバジン、フラノ、サッカー、ダブルガーゼ、リネン（麻布）、ちりめん、タオル地、ワッフル、シーチング、ポプリン、シャンプレー、ダンガリー、サテン、サージ など	ポリエステル糸	60 ～ 90	11 ～ 14	普通のぬい目 (2.0 ～ 3.0)
		綿糸、絹糸	50 ～ 60		
厚地	デニム（12 オンス以上）、帆布 など	ポリエステル糸、綿糸	30	16	粗いぬい目 (2.5 ～ 4.0)
	デニム（12 オンス以上）、帆布、ツイード、コートデュロイ、ペロア、キルティング、メルトン、モッサ、ビニールコーティング地 など	ポリエステル糸	60	14 ～ 16	
		綿糸、絹糸	30 ～ 50		
のびる布地 (ニット素材など)	ジャージー、トリコット、T シャツ地、フリース、スムース など	ニット用糸	50	ニット用針（金） 11 ～ 14	布地の厚みに 応じて模様を 選択
		ポリエステル糸	30	14 ～ 16	
			50 ～ 60	11 ～ 14	
ステッチをかける場合 * 20 番以下の太い糸（ステッチ糸）を使用しないでください。糸通し装置の故障や、針折れの原因となります。					

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず 14 ～ 16 番の針を使用します。

⚠ 注意

- ・ 布地と糸と針の組み合わせは、前ページの表に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因となります。特に、厚い布地（デニムなど）を細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

2 基本のぬい方

ぬってみましょう

⚠ 注意

- ・ ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針やプーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
- ・ 縫製中は、布地を無理に引っ張ったり押ししたりしないでください。けがや針折れの原因となります。
- ・ 曲がった針は使用しないでください。けがをするおそれがあります。
- ・ 縫製中は、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れ、けがをするおそれがあります。
- ・ 正しい押えを使用してください。間違った押えを使うと、押えに針が当たり針が折れ、けがをするおそれがあります。
- ・ プーリーを手で回す時は必ず手前（時計と反対回り）に回してください。反対に回すと、糸がからまったり針や布地をいためたり、けがをするおそれがあります。
- ・ 押えの下に布地を置かずにミシンを動かさないでください。押えがこわれるおそれがあります。

① 電源を入れます。



⚠ 注意

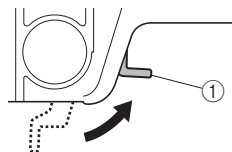
- ・ フットコントローラーを踏みながら電源を入れないでください。ミシンが動いてけがをするおそれがあります。

② プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回して針を上げ、プーリーのしるしが最上部にくるようにします。

③ 模様選択ダイヤルを回して模様を選びます。

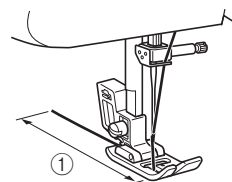
④ 必要に応じて押えを交換します。（P. 12）

⑤ 押えレバーを上げます。



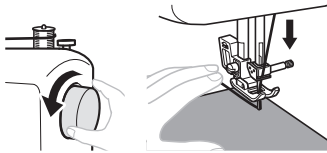
① 押えレバー

⑥ 押えの下に布地を置き、上糸を押えの穴から押えの下に通して、押えの下から後ろ側へ10cmほど引き出します。

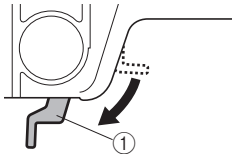


① 10cm

- 7 左手で布地と糸を押さえ、右手でプーリーを手前（時計と反対回り）に回しながらぬい始めの位置に針を刺します。

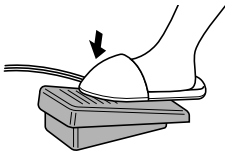


- 8 押えレバーを下げます。



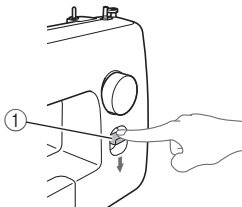
① 押えレバー

- 9 フットコントローラーをゆっくり踏み込み、ぬい始めます。



- 10 ぬい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離します。

- ・ 糸の端がほつれないように、返しぬいレバーを押して返しぬいをします。
- ・ フットコントローラーを軽く踏みながらレバーを下げている間は返しぬいを行います。レバーを元に戻すと前に進みます。返しぬいの幅は 2mm で固定されています。

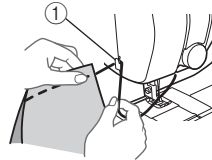


① 返しぬいレバー

- 11 プーリーを手前（時計と反対回り）に回して針を上げます。

- 12 押えレバーを上げます。

- 13 布地を左側に引いて、ミシン本体左側にある糸切りで糸を切ります。



① 糸切り

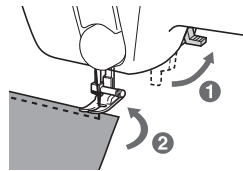
試しぬいをする

作品をぬい始める前に、実際に使用する布地のはぎれと糸で試しぬいをすることをおすすめします。

布地の枚数や模様に合わせて、糸調子や模様の幅・長さを確認してください。

ぬう方向を変更する

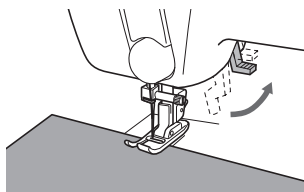
角までぬったらミシンを停止させます。このとき針が下がった状態にしておきます。押えレバーを上げ、布地を回転させ、押えレバーを下げてから続きをぬいます。



厚い布地をぬう

■ 押えの下に布地が入らない場合

押えレバーは 2 段階に上がります。厚地を重ねてぬう場合など布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり布地を入れやすくなります。



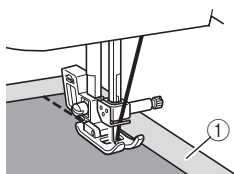
⚠ 注意

- ・ 6mm 以上の厚地をぬったり、無理に布地を押し込まないでください。針が折れ、けがをするおそれがあります。

薄い布地をぬう

薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布地がうまく送られないことがあります。

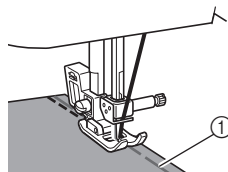
その場合は布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）や薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。



① 水溶性シート（不織布タイプ）

伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。ぬい目がつれる場合、布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をして、布地と一緒にぬいます。

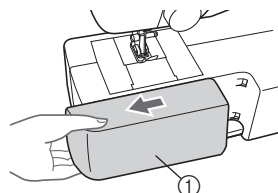


① しつけ

筒ものをぬう

そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

① 補助テーブルを左へ引いて取り外します



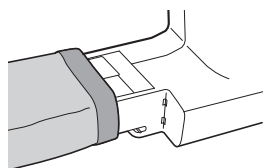
① 補助テーブル

- ▶ 補助テーブルを取り外すと筒ものがぬえるようになります。

🙏 お願い

- ・ ぬい終わったら、補助テーブルを元に戻してください。

② ぬいたい部分をアームにセットし、筒を回らせながら布地をぬっていきます。



糸調子を調節する

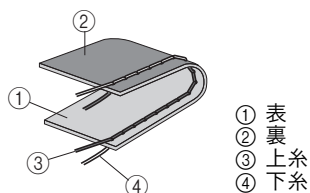
ぬい目の仕上がりは、糸調子によって左右されます。布や糸を変えたときは、糸調子の調節を行ってください。

❁ お願い

- ・ 作品をぬい始める前に、実際に使用する布地のはぎれと糸で試しぬいをしてください。

■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。

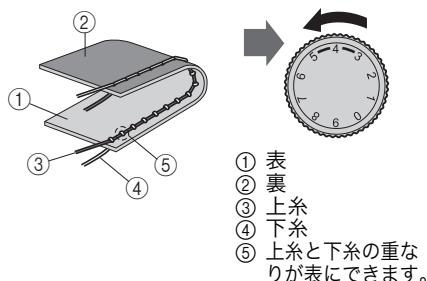


■ 上糸が強いとき

上糸と下糸の重なりが表にできます。

❁ お知らせ

- ・ 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットをやり直してください。「下糸をセットする」(P. 17) を参照してください。



解決方法

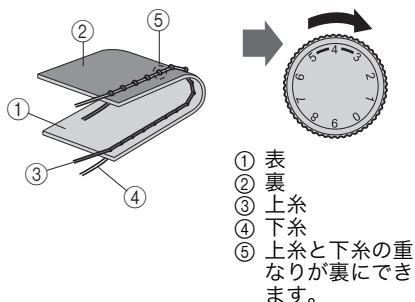
上糸調子を弱くします (小さい数字に変更します)。

■ 上糸が弱すぎるとき

上糸と下糸の重なりが裏にできます。

❁ お知らせ

- ・ 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなる場合があります。上糸が弱いときは、上糸通しをやり直してください。「上糸を通す」(P. 19) を参照してください。



解決方法

上糸調子を強くします (大きい数字に変更します)。

3 いろいろなぬい方

直線模様

基本のぬい方です。

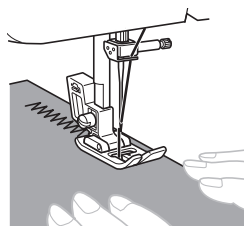
薄地をぬうときは、ぬい目の長さの短い模様を、
厚地のときは長い模様を選択してください。

名前	模様	ぬい目の長さ [mm]
直線 (中基線)	6 —	1.6
直線 (中基線)	7 —	1.8
直線 (中基線)	8 —	2
直線 (中基線)	9 —	3
直線 (中基線)	10 —	4
直線 (左基線)	11 —	2.5

ジグザグ模様

飾りぬいやアップリケなどに使用します。

名前	模様	ぬい目の長さ [mm]	振り幅 [mm]
ジグザグ	2 ~	0.7	1.8
ジグザグ	3 ~	1.5	3.3
ジグザグ	4 ~	2	5



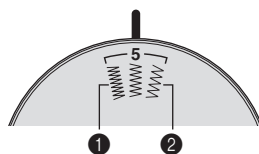
ジグザグ (サテン) 模様

ジグザグ (サテン) 模様は飾りぬいやアップリケとして使用できます。

この模様をぬうときは、少し上糸の調子を弱くすると、きれいに仕上がります。

模様選択ダイヤルの 5 番の 3 つのぬい目の長さから 1 つを選択します。真ん中の模様が標準のぬい目の長さになります。

名前	模様	ぬい目の長さ [mm]	振り幅 [mm]
ジグザグ (サテン)	5 ~	0.4 0.5 0.6	5



- ① 短いぬい目
- ② 長いぬい目

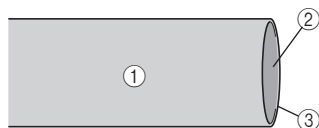
すそ上げをする

名前	模様	ぬい目の長さ [mm]	振り幅 [mm]
まつりぬい	12	2	5
まつりぬい (伸びる布地)	14	2	5

お知らせ

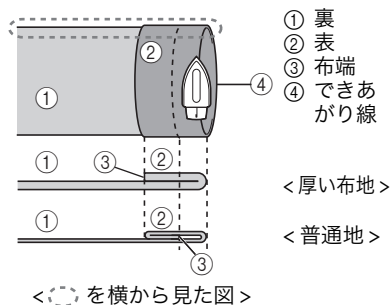
- ・ 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

- 1** すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。

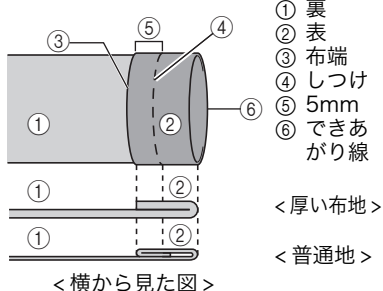


- ① 裏
② 表
③ 布端

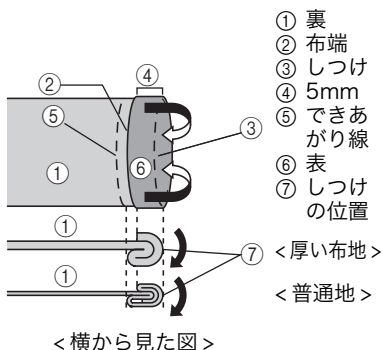
- 2** できあがり線で布を表返し、アイロンをかけます。



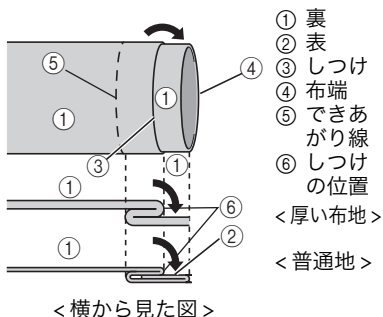
- 3** 布端から約 5mm のところにチャコペンでしるしをつけ、しつけをします。



- 4** しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



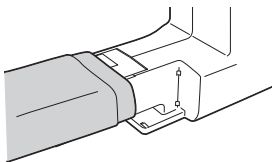
- 5** 布端を開いて裏返します。



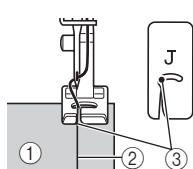
- 6** 補助テーブルを外して、ミシンをフリーアームにします。

- ・ 詳細は、「筒ものをぬう」(P. 27) を参照してください。

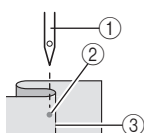
- ⑦ 下図のように布地をアームにセットし、布地を回転させられることを確認します。



- ⑧ 模様を選択した後、プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回して針が右側から左側に動くことを確認します。
- ⑨ 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、針が左側にあるときに折り山に少しかかるよう調節します。



- ① 裏
② 折り山
③ 針落ち位置

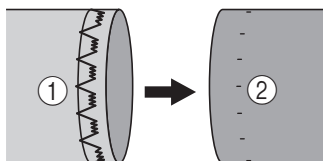


- ① 針
② 針落ち位置
③ 折り山

- ⑩ 押えレバーを下げます。

- ⑪ 手で布を押さえて低速でぬいます。このとき、針が折り山に少しかかるようにします。

- ⑫ ぬい終わったら、しつけをほどこき、布地を表に返します。



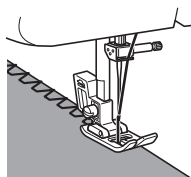
① 裏

② 表

たち目かがり

名前	模様	ぬい目の長さ [mm]	振り幅 [mm]
たち目かがり	15 ~	2	5

- ① 押えの中心から布端までの距離が約3mmになるように、布地を押えの下に置きます。



- ・ぬいしろの幅が模様よりも大きい場合は、はみ出した布地をぬった後に切ってください。

3点ジグザグ

名前	模様	ぬい目の長さ [mm]	振り幅 [mm]
3点ジグザグ	13 ~	1	5

普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。

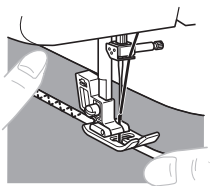
■ つくろいぬい

- ① つくろいぬいする布の下に補強用の布を置きます。
 - ・ 補強用の布は、まち針で留めます。
- ② やぶれた箇所を以下のように3点ジグザグでぬいます。



■ ゴムひもつけ

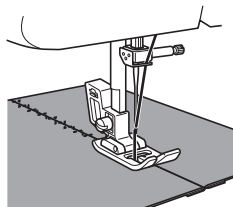
- ① まち針で布地の裏側にゴムひもを留めます。
- ② 押えの後ろ側の布地と押えに一番近いまち針のところを引っ張りながらぬいます。



■ つき合わせ

3点ジグザグ模様を使って2枚の布をつき合わせてぬうことができます。ニット素材をぬうときに効果的です。ナイロン糸を使用すると、ぬい目は見えません。

- ① 2枚の布の端をつき合わせて押えの下に置きます。
- ② 3点ジグザグ模様を使ってぬいます。2枚の布をしっかりとくっつけてぬってください。
 - ・ まち針を使って2枚の布を留めます。

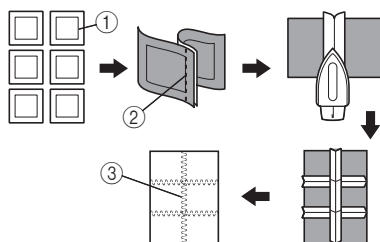


2 段つき合わせぬい

名前	模様	ぬい目の長さ [mm]	振り幅 [mm]
つき合わせ	16 	1.2	5
つき合わせ	17 	1.2	5

これらの模様は2枚の布をつき合わせるパッチワークなどで使用します。

2 段つき合わせぬいを使ったパッチワーク例



- ① できあがり線
- ② 直線ぬい
- ③ つき合わせぬい

ボタン穴かがり

⚠ 注意

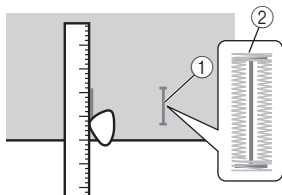
- ・ 押えを交換するときは、必ず電源を切ってから行ってください。万一、フットコントローラーを踏んでしまうと、ミシンが作動してケガの原因となります。

模様	ぬい目の長さ [mm]	振り幅 [mm]	押え
	0.5	5	ボタン穴かがり押え<A>

🙇 お願い

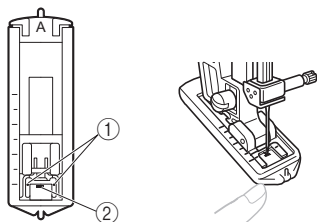
- ・ ボタン穴かがりをするときは、ぬい目の長さと振り幅を確認するために、実際に使用する布のはぎれで試しぬいをしてください。
- ・ 柔らかい布地にボタン穴かがりをするときは、接着芯を布地の下に貼ってください。

- 1 布地の穴かがりをする位置に、ボタン穴の長さのしるしをつけます。



- ① しるし (ボタンの直径 + 厚み)
- ② ボタン穴かがり (出来上がり)

- 2 ボタン穴かがり押え<A>を取り付け、手前を押しながら布地のしるしに押えのしるしを合わせて押えを下げます。











- ① 押えのしるし
- ② 布地のしるし

⚠ 注意

- ・ 正しい向きで押えを取り付けないと、針が押えに当たって折れ、けがをするおそれがあります。(詳しくは「押えの向き」(P. 12)を参照してください。)

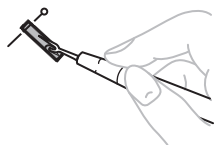
■ ボタン穴かがりの手順

手順	ぬった部分	模様
手順 1 (手前)		
1. 模様選択ダイヤルを「a」に合わせます。 2. 押えレバーを下げて、5～6針かんぬき止めをします。 3. 針が左側におちたときにミシンを止めて針を上げます。		
手順 2 (左側)		
1. 模様選択ダイヤルを「b」に合わせます。 2. しるしまでぬいます。 3. 針が左側におちたときにミシンを止めて針を上げます。		

手順	ぬった部分	模様
手順3 (後ろ側)		
1. 模様選択ダイヤルを「c」に合わせます。 (手順1と同じ模様です) 2. 押えレバーを下げて、5～6針かんぬき止めをします。 3. 針が右側におちたときにミシンを止めて針を上げます。		
手順4 (右側)		
1. 模様選択ダイヤルを「d」に合わせます。 2. 手順1でぬった同じ長さで右側をぬいます。 3. 糸を少し長めに切ります。		

■ ほつれどめとボタンホールの切り開き方

- ① ぬい目のほつれを防ぐため、上糸の端を布地裏に出し、下糸と結びます。
- ② かんぬき止めの片方の内側にまち針を刺します。
- ③ リッパーをまち針の方へ向けて、ボタン穴を切り開きます。



⚠ 注意

- ・ リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。

ボタン穴かがりの調整

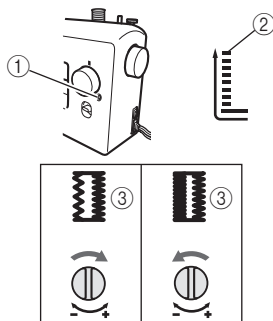
ボタン穴かがりの両側のぬい目が同じでない場合は、次の調整を行います。

- ① 左側のかんぬき止めの後、右側のかんぬき止めをぬいます。



① 右側

- ② 左側のかんぬき止めが右側と比べて開きすぎていたり、詰まりすぎていたときは、ボタン穴かがり微調節ねじをイラストのように回して調節します。



- ① ボタン穴かがり微調節ねじ
- ② 左側
- ③ ボタン穴かがりの状態

左側のかんぬき止めが開きすぎていた場合は、時計回りにねじを回します。

左側のかんぬき止めが詰まり過ぎている場合は、時計と反対回りにねじを回します。

- ・ この調節をしてボタン穴かがりの両側を同じにします。

ファスナーつけ

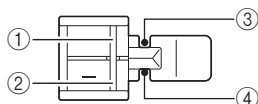
⚠ 注意

- ・ 押えを交換するときは、必ず電源を切ってから行ってください。万一、フットコントローラーを踏んでしまうと、ミシンが作動してケガの原因となります。

名前	模様	ぬい目の長さ [mm]	押え
直線 (中基線)		3	片押え < I >

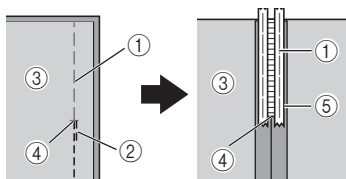
片押え< I >を使うといろいろなタイプのファスナーを簡単にぬうことができます。

右側を使ってファスナーをぬう場合は、片押えのピン左側に押えを取り付けます。左側を使ってぬうときは、ピン右側に押えを取り付けてください。



- ① ピン右側、ファスナーの左側をぬうとき
- ② ピン左側、ファスナーの右側をぬうとき
- ③ 針落ち位置、ファスナーの左側をぬうとき
- ④ 針落ち位置、ファスナーの右側をぬうとき

- ① ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。ぬいしろを割り、ぬい目とファスナーの中央を合わせてしつけをします。



- ① しつけ
- ② 返しぬい
- ③ 裏
- ④ あき止まり
- ⑤ ファスナー

- ② 電源を切り、片押え< I >を取り付けます。

⚠ 注意

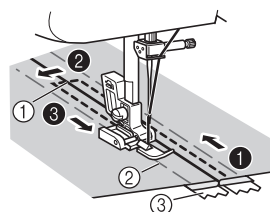
- ・ ぬう前にプリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。間違った模様でぬうと、針が押えに当たって折れ、けがをするおそれがあります。

- ③ 電源を入れます。

⚠ 注意

- ・ フットコントローラーを踏みながら電源を入れないでください。予期せずミシンが作動してケガや故障の原因となります。

- ④ ピン右側に押えをつけ、布地の表からステッチをかけます。



- ① あき止まり
 - ② しつけ
 - ③ ファスナー
- ・ ①から③の順でぬいます。

⚠ 注意

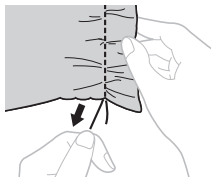
- ・ ぬうときは、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れ、けがをするおそれがあります。

- ⑤ しつけをほどきます。

ギャザーよせ

名前	模様	ぬい目の長さ [mm]
直線 (中基線)	9 —	3
直線 (左基線)	11 —	2.5

- 1 上糸の糸調子を弱めに設定します。
- 2 直線ぬいを1本（もしくは2本）ぬいます。
- 3 ギャザーを寄せるために下糸をひっぱります。



アップリケ

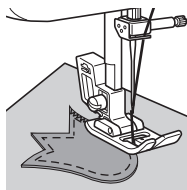
名前	模様	ぬい目の長さ [mm]	振り幅 [mm]
ジグザグ	2 ~	0.7	1.8
ジグザグ	3 ~	1.5	3.3
ジグザグ	4 ~	2	5
ジグザグ (サテン)	5 ~	0.4 0.5 0.6	5

別の布を切ってアップリケを作り、土台となる布に飾りとしてつけます。

- 1 アップリケとして切り取った布をしつけます。



- 2 ゆっくりとジグザグ模様でアップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬいます。



4 付録

お手入れのしかた

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。

万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

ミシンを保管するときの
ご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- ・ 温度が著しく高くなる場所
- ・ 温度が著しく低くなる場所
- ・ 急激に温度が変化する場所
- ・ 湿気、湯気が多い場所
- ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- ・ 屋外や直射日光の当たる場所
- ・ ほこり、油煙の多い場所

🍵 お願い

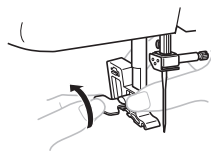
- ・ 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。
- 長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

かまの掃除

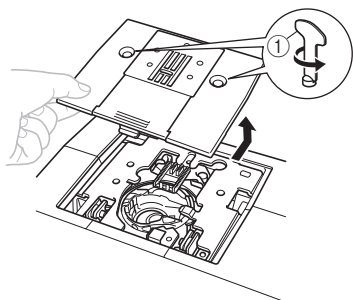
! 注意

- ・ ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがの原因となります。

- ① 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- ② 押えを上げて、針と押えを外します。
- ③ 押えホルダーのネジと針の止めネジをゆるめ、押えホルダーと針を取り外します。

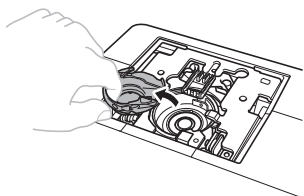


- ④ ネジ回しを使って2つのネジを取り外します。針板をイラストのように持ち上げ、針板を左側にスライドさせて取り外します。

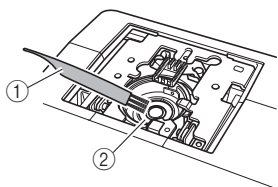


① ネジ回し

- ⑤ 内かまをつかみ、取り出します。



- ⑥ ミシンブラシや掃除機で、外かまと周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

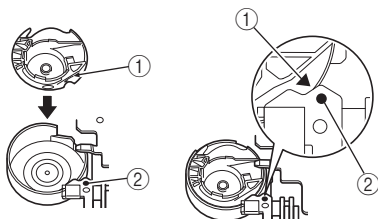


- ① ミシンブラシ
② 外かま

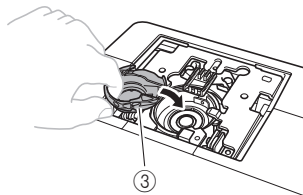
重要

- ・ 内かまに油をささないでください。

- ⑦ 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます



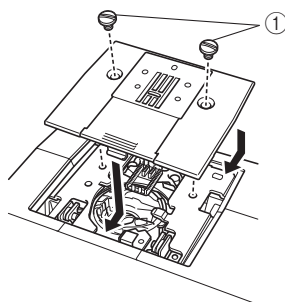
- ・ ▲印と●印を合わせます。



- ① ▲印
② ●印
③ 内かま

- ・ 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

- ⑧ 針板を取り付け、ネジをしめます。



- ① ネジ

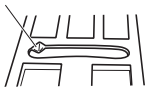
- ・ 針板は正しく取り付けてください。

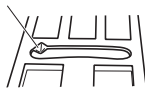
注意

- ・ 傷やバリがある内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針が折れ、けがをするおそれがあります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店でお買い求めください。
- ・ 内かまは正しい位置に取り付けてください。針が折れ、けがをするおそれがあります。

こんなときは

修理を依頼される前に、次の項目を点検してください。参照ページが「-」のときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。

症状、原因（対処）	ページ
ミシンが動かない	
電源スイッチが入っていない。	10
下糸巻き軸が右側のままになっている。	16
フットコントローラーが正しく使われていない。	10
布がミシンに入り込んでとれない	
糸が針板の下でからんでいる ▶ 布を持ち上げて、布の下の糸を切り、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。	37
針が折れる	
針の取り付け方がまちがっている。	10
針のとめネジがゆるんでいる。	11
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	10
上糸の通し方がまちがっている。 ▶ 上糸を正しく通してください。	19
布地に合った針・糸を使用していない。	23
模様にあった押えを使用していない。	33, 35
上糸調子が特に強すぎる。	28
布地を不当に引っ張っている。	-
糸こまが正しくセットされていない。	20
針板の穴の周辺に傷がある。 ▶ 針板を交換してください。 この部分はキズではありません。	-
	
内かまに傷がある。	38

症状、原因（対処）	ページ
本機純正のポピンを使用していない。	15
上糸が切れる	
上糸の通し方がまちがっている（糸こまが正しくセットされていない、糸が針棒糸かけから外れているなど）	19
糸に結び目やからまりがある。 ▶ 結び目やからまりを取り除きます。	-
使用している糸に合った針を使用していない。	23
上糸調子が特に強すぎる。	28
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	10
針の取り付け方がまちがっている。	10
針板の穴の周辺に傷がある。 ▶ 針板を交換してください。 この部分はキズではありません。	-
	
内かまに傷がある。	38
本機純正のポピンを使用していない。	15
下糸がからまる／切れる	
下糸が正しく巻かれていない。	15
ポピンにキズがある、または回転がなめらかでない。	15
糸がからまっている。	37
本機純正のポピンを使用していない。	15
下糸セットのしかたがまちがっている。	17

症状、原因（対処）	ページ
糸調子が合わない。	
上糸の通し方がまちがっている。	19
下糸が正しく巻かれていない。	15
布地に合った針・糸を使用していない。	23
押えの取り付けがまちがっている。	12
糸調子が合っていない。	28
本機純正のボビンを使用していない。	15
下糸セットのしかたがまちがっている。	17
布地にしわがよる	
上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	15～22
糸こまが正しくセットされていない。	20
布地に合った針・糸を使用していない。	23
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	10
薄い布地に対してぬい目があらずぎる。	27
模様にあった押えを使用していない。	33, 35
糸調子が合っていない。	28
ぬい目が飛ぶ	
上糸の通し方がまちがっている。	19
布地に合った針・糸を使用していない。	23
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	10
針の取り付け方がまちがっている。	10
針板の下や内かまにほこりなどがたまっている。	37
糸通しが使えない	
針が上に上がっていない。	19
針の取り付け方がまちがっている。	10

症状、原因（対処）	ページ
模様が正しくぬえない	
模様にあった押えを使用していない。	33, 35
糸調子が合っていない。	28
糸がかからまっている。	37
布地を送らない	
布地に合った針・糸を使用していない。	23
かまに糸がかからまっている	10

仕様

項目	仕様
本体寸法	39.2 cm (幅) × 14.6 cm (奥行) × 30.8 cm (高さ)
製品質量	約 4.7 kg
ぬい速度	最速 750 針／分
使用ミシン針	家庭用ミシン針 (HA×1)
定格電圧／消費電力	100V (50-60Hz) ／ 50W
手もとライト	白色 LED

索引

あ	
アップリケ	36
い	
糸切り	26
糸こま	15, 20
糸調子	28
糸通し	
上糸	19
下糸	17
糸通し装置	21
う	
上糸調節	28
上糸を通す	19
お	
お手入れのしかた	37
押えの交換	12
か	
返しぬいレバー	26
各部の名称	8
かまの掃除	37
き	
ギャザーよせ	36
こ	
こんなときは	39
し	
ジグザグ模様	29
下糸セット	18, 22
下糸を引き出す	22
下糸を巻く	15
す	
すそ上げをする	30
そ	
掃除	37
た	
たち目かがり	31
ち	
直線ぬい	29
つ	
つきあわせ	32
筒ものをぬう	27
て	
電源コード	9
プラグ	9
電源の入れ方	10
ぬ	
布地と糸の種類による針の使い分け	23
の	
伸びる布地	27
は	
針	
正しい針の見分け方	10
布地と糸の種類による針の使い分け	23
針の交換	10
ふ	
ブーリー	19
ファスナー	35
附属品	8
フットコントローラー	10
ほ	
補助テーブル	8
ボタン穴かがり	
ボタン穴かがりの手順	33
ボタン穴かがりの調整	34
ボタン穴かがり調節ねじ	34
も	
模様	
模様の種類	29
模様の名称	13
模様選択ダイヤル	13
ら	
ライト	10







アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ お客様相談室（ミシン119番）

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

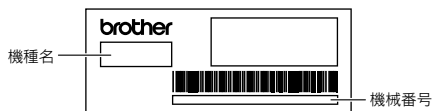
〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番） Tel: 0570-061-134
お問い合わせ窓口 <https://s.brother/crgka/>

受付時間：月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:00
休業日：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日



- お客様相談室（ミシン119番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。
<https://www.brother.co.jp/>

ブラザーのサポートサイトでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。
<https://s.brother/cpnac/>



ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561

888-X67/X87



D03E10-001